

海況速報

平成 14 年度 第 4 号 (通算 No.88)
平成 14 年 12 月 2 日
北海道立水産試験場



内容についてのお問い合わせは
中央水産試験場 海洋環境部
Tel 0135-23-4020

荒天による調査期間の延長や、試験場のコンピューターシステムの入れ替えが重なり、発行が大変遅くなりましたことお詫び申し上げます。また、ホームページへの反映も若干時間がかかる見込みです。ご容赦ください。

9月下旬から10月下旬の海況

日本海海域

積丹半島西方に暖水渦

積丹半島西岸沖の北緯 43 度 30 分、東経 139 度 40 分付近に暖水渦が発生しました (100m 層で 10 以上)。この暖水渦は次第に西へ移動すると考えられます。本道西岸の対馬暖流は、この暖水渦の西方を回って、礼文島西方へ北上しています。水温についてみると、本道沿岸側では平年より水温の高いところが多くなっています。特に北緯 43 度 30 分の沿岸側では、昨年同期と比較すると 3 ~ 8 高くなっています。反対に沖合域では低くなっており、沿岸と沖合域の温度差が大きくなっています。

余市における 8 月下旬以降 11 月中旬までの沿岸水温 (旬平均) は、8 月下旬に「非常に低い」でしたが、以降、11 月中旬まで「平年並み」に推移しました。

道東太平洋海域

水温は低め

北緯 41 度東経 146 度付近に暖水塊の縁が見えます (100m 層 13 以上)。また、沿岸側には宗谷暖流起源の道東沿岸流 (例えば 100m 層で 9 以上) が見えます。これらの暖水域の間には 100m 層で水温 2 以下の親潮が広がっています。水温についてみると、根室半島南方はるか沖の暖水塊の影響を受けたところは平年より高くなっていますが、その他は全体的に低くなっています。

道南太平洋海域

津軽暖流は渦モード

100m 層で 10 以上の津軽暖流は道南太平洋を広くおおい、襟裳岬南方の東経 143 度 20 分付近まで張り出し、渦モード (* 1) となっています。また、津軽暖流水が噴火湾口北部の室蘭沖側から噴火湾内に流入しているようです。水温についてみると、津軽海峡東口付近の津軽暖流域でやや高いほかは、平年並みとなっています。

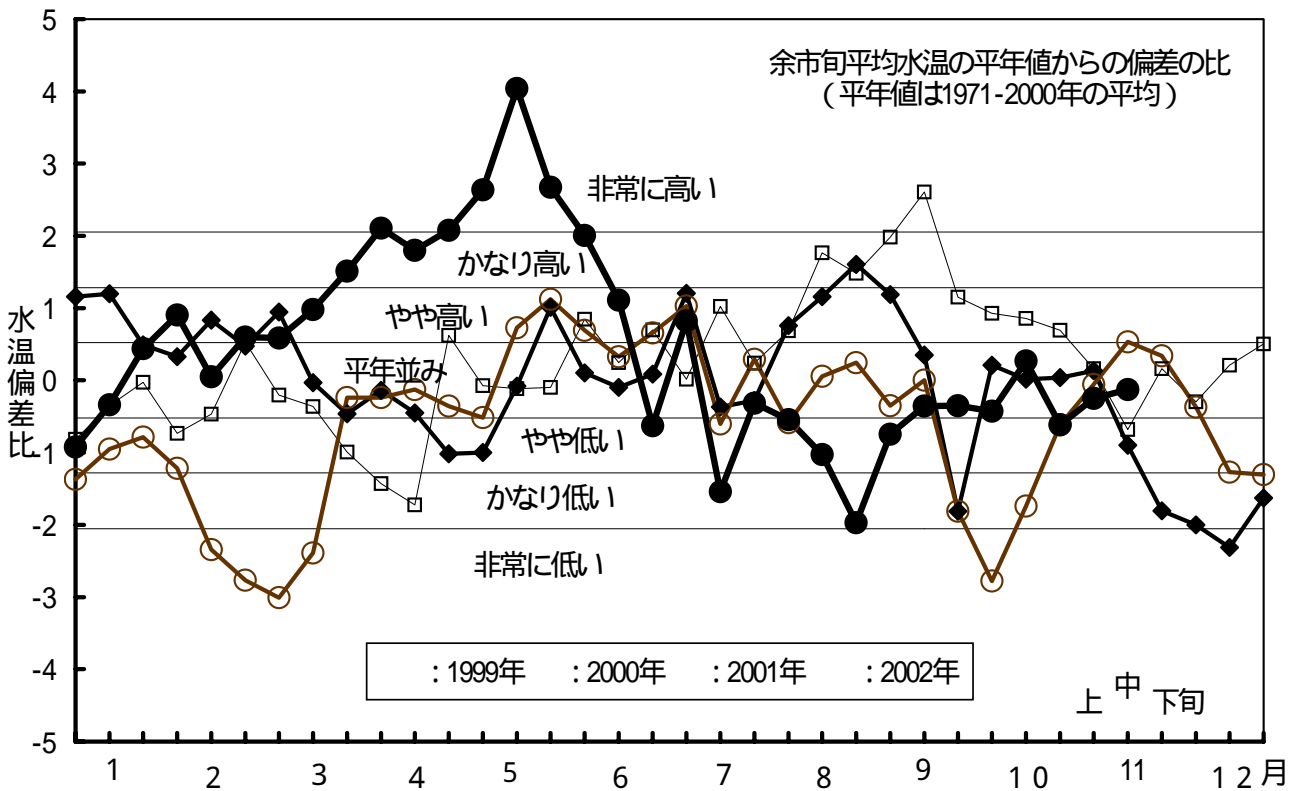
オホーツク海海域

宗谷暖流順調

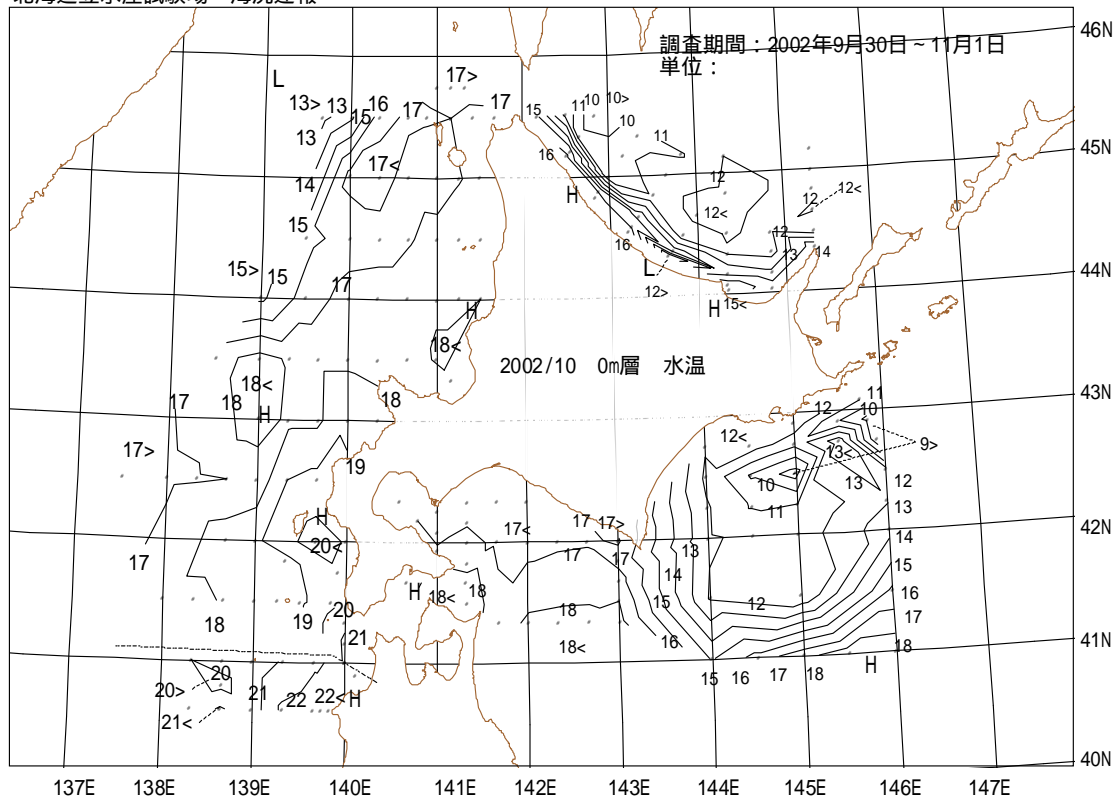
50m 層では、サロマ湖沖の水温 13 以下のところを除き、14 以上の海域が知床半島まで達しており、宗谷暖流は順調に流れているようです。水温についてみると、沿岸側の宗谷暖流域で平年より高く、沖合側では低くなっています。前回 (8 月) 非常に低かった表面水温は、やや回復し、ほぼ平年並みまで戻りました。

資料	観測期間	
青森水試（東奥丸）	平成 14 年 9 月 30 日から同 10 月 1 日	（東北日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	平成 14 年 10 月 9 日から同 10 月 11 日	（道北日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	平成 14 年 10 月 15 日から同 10 月 17 日	（オホーツク海南東部海域）
釧路水試（北辰丸）	平成 14 年 10 月 21 日から同 10 月 25 日	（道東太平洋海域）
釧路水試（北辰丸）	平成 14 年 10 月 31 日から同 11 月 1 日	（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	平成 14 年 10 月 16 日から同 10 月 18 日	（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	平成 14 年 10 月 8 日から同 10 月 14 日	（道西日本海海域）

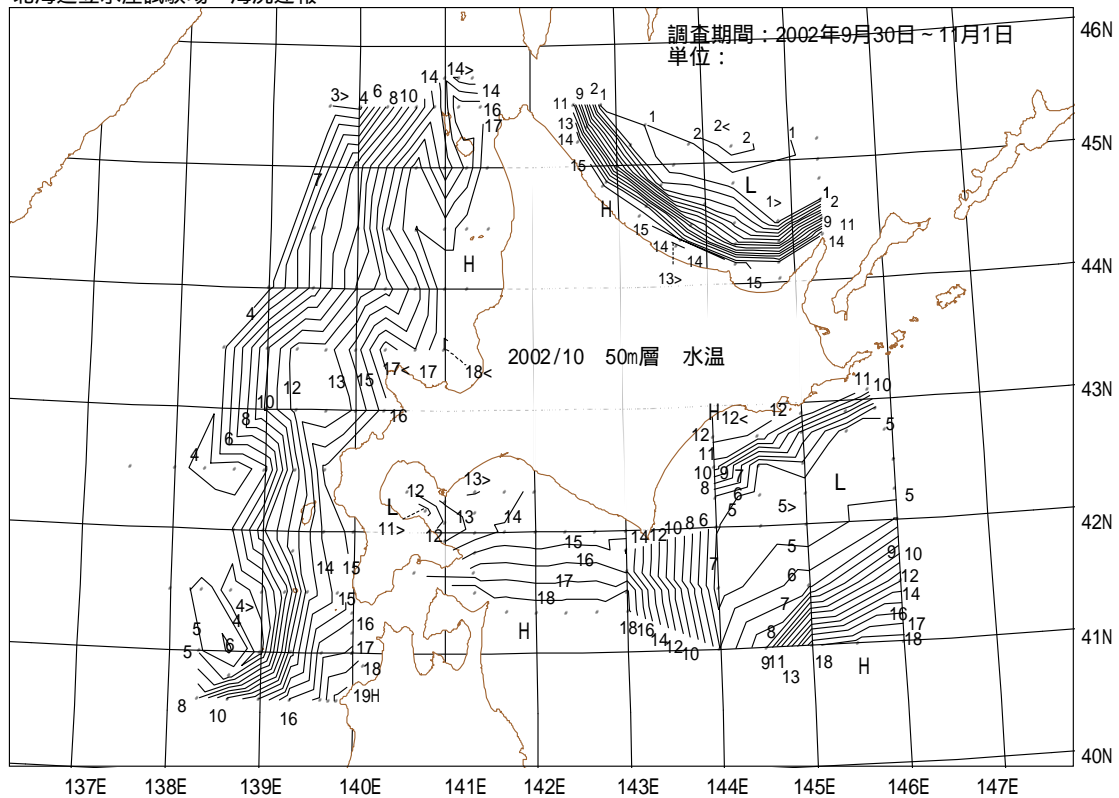
* 1：津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して、津軽暖流が青森県尻屋埼からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。



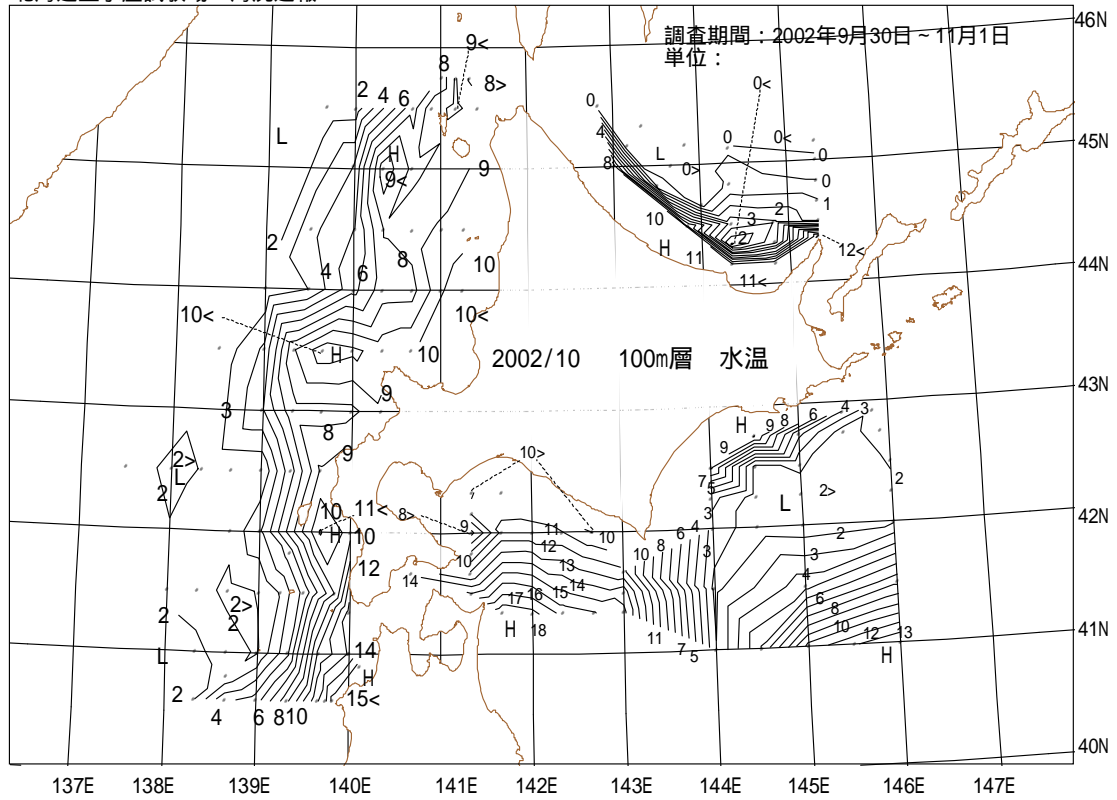
北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報

